

植物研究雜誌

主筆 牧野富太郎
第六卷 第四號 (通卷第
五十二號)

昭和四年四月十五日 (1929)
東京 津村研究所 發行

○岡村金太郎博士ノ藻類學開講

結網學人 牧野富太郎

年ヲトツテ來ルト段々人間味ガ豊カニナツテ思ヒ遣リノ心ガ強ク働ク、我ガ親友理學博士岡村金太郎君モ今年確カ卯ノ年ノ六十三歳、此ニ一念發起^{ホツキ}シテ今度此度ビ藻類學ノ生キ神様トナラレお賽錢喜捨要求ノ下心ハ微塵モナイカラ是レハ信者ノ心任カセ、タバ心底カラ精神込メテ神妙ニ謹聽スル信者ニハ海藻知識ノ莫大ナ御利益ヲ與ヘテ下サルトアル、何ントありがたい事デハナイカ、イヤ戲談^{ツヤクタン}ドコロノ騷ギデヤナイ是レハ眞劍ナ話デア^ル、我等ノ社會即チ植物學者ノ社會ニハ濟々タル多士ガアルガ何カニツケテ金ト云フ執着心カラ離レテ斯ウ我ガ勞力モ犠牲ニシ我ガ利得ヲモ顧慮セズタバ學問ヲ念フノ一方デ我ガ蘊蓄ヲ傾倒シ其知識ヲ分ケテ遣フト云フ人ハアマリ見付カラナイ、其レ故學校デ教ヘタ後モ尙ホ續イテ我ガ子ノ様ニ弟子達ノ面倒ヲ見テ遣リ斷エズ我ガ知識ヲ與ヘテ導テ遣ツテ居ル先生ハ滅多ニ無イヤウダ、カウ云フ世相ユエニ學校デ親シク教ヲ受ケタお弟子モ一タビ其校門ヲ出ルト段々先生ト遠ザカリ師弟ノ影ガ煙ノ様ニ次第二淡^{ウス}レ行ク如ク感ズル、後ニハ先生糞ヲ食ヘトイフ程惡たれヲきく奴ハナイニシテモ確カニ先生ヲ忘レ先生ヲ輕ンズル者ハアルヤウダ、是レハ無論總テハハナイガ大抵ハ五分ハお弟子モ惡イガ五分ハ又先生ニモ思慮ガ足りナイトモ思フ、お弟子ハ縁ナキ衆生^{シヤウ}デハナイ慈悲サヘ垂ルレバ何時デモ懷イテ來テ濟度ガ出來ルニ極マツテ居ル、先生方御迷惑デモ我ガ邦ノ學問ヲ進メル爲メニ不斷お弟子ノ面倒ヲ見テ遣ツテ下サイ

岡村金太郎博士ノ藻類學開講



理學博士 岡村金太郎君（水産講習所長）

元トハ江戸ノ藝町人ヲ慶應三年丁卯四月ニ芝ノ新泰町デ生レ本年取ツテ六十三歳
 （昭和四年二月二日所長室ニテ岡田君一君撮影）

ナリ我ガ邦ニ取ツテコンナ喜バシイ事ハナイ、我ガ邦ハ四方海ヲ環ラシ暖潮南ヨリ來リ寒潮北ヨリ注イデ内海モアレバ外洋モアリ大小ノ岬灣モアレバ遠近ノ島嶼モアル從テ藻類ニ富ンデ居ル事大ニ世界ニ誇ツテヨイバカリデナク其之レヲ應用スル術モ亦我ガ邦ガ一番デアラウ其レ故幾ラ研究シテモ混々トシテ其源泉盡クル事ナク踵ヲ接シテ新事實ガ現ハレ來ルデアラウカラ研究者ハ斷エズ無限ノ興味ニ浴シツ、愉快ニ其研究ニ從事スル事

岡村君ノ今回ノ此舉ハ兎ニ角我ガ學界ノ爲メニ結構至極ナ事デアル此聽講者ハ皆々、春夏秋冬休ム暇ナク多年ノ間刻苦精勵シテ研鑽ヲ積ミ今ハ押シモ押サレモセズ世界的ノ學者トナラレタ岡村君ノ貴イ知識ノ分配ニ預カリ後來幾ツモノ岡村君ガ出來ル譯デアレバ我ガ邦ノ藻類學ハ益ス發展シ一面ニハ純學問ノ進歩トナリ一面ニハ益ス人生ヲ益スル應用方面ノ發達ト



○上圖
前列、右ヨリ
佐々木光子
岡村金太郎(講師)
岡多田喜一
後列、右ヨリ
吉川春樹
越智主一
小林義雄ノ諸氏



○下圖 講義室並ニ實驗室トナレル岡村博士ノ書齋
中央ニ講義セルハ岡村博士、聴講者ハ右側奥ヨリ越智主一、佐々木光子、丸尾ふみ子、左側奥ヨリ小林義雄、多田喜一、吉川春樹ノ諸氏

ガ出來ルノデアル
私ハ右ニ述ベタ事ヤ又此學ニ就
テ其レカラ其レヘト思ヒ廻ラセ
バ此岡村君ノ舉ハ何ト言ツテモ
貴イモノデアル、ドウカ岡村君
ガ老イ去ツテ足腰ノ立タヌ様ニ
ナリ口モキケヌ様ニナルマデ此
美舉ガ續キタイ又岡村君ニハ人
魚デモ食ツテ成ルベク長生キヲ
シテ貰ヒタイ私ハ神カケテ其レ
ヲ祈ル、ソシテ寄ツテタカツテ
岡村君ノ頭ノ中ノ知識ヲ吸ヒ盡
シシヤぶり盡シテ其レヲ吸ヒガ
ラトナシ其カラヲ冥途ヘ送レバ
岡村君モ必ズヤにつこり笑ツテ
心地ヨゲニ瞑目スル事請合ヒデ
アル、藻類學ニ志ス善男善女ゆ
め疑ヒアルベカラズ
左ニ岡村君カラ四方ヘ配バラレ

タちらしヲ掲ゲル、家塾式ノ溫情アル此福音ヲ聞テハ誰レデモありがた涙ガコボレル

藻類學開講

一 目的

藻類學ノ智識ヲ普及スル目的ヲ以テ私宅ニ於テ參考書及參考標品ノ使用ヲ許シ講義及實驗ノ指導ヲナサントス

一 場所

小石川區高田豐川町四二番地（女子大學前坂ノ中途）自宅書齋

一 資格

知人ノ紹介ヲ以テ自分ノ満足スル學歷ヲ有スルモノ、外男女ヲ問ハズ別ニ資格ヲ定ムルコトナシ但シ志望者ハ一應面談ノコト

一 費用

授業料ハ徵收セザレドモ諸器具器械藥品等總テ自辨ノコト

一 期間

差當リ四月一日ヨリ十一月末日迄ノ間ニ於テ日曜其他休日及週間ノ木曜日ヲ利用シ夜七時半ヨリ講義ノコト

一 人員

何分手狹ニ付人員ニハ相當制限ヲ附スル要アルベシ若シ多數ニ互ルトキハ一部次回ニ繰リ替ヘル等ノコトアルベシ

一 希望條件

書籍及標品ハ之ヲ各自ノ自由參考ニ使用セシムト雖モ破損、紛失、散逸等ノコトハ絕對ニ之ナキコトヲ希望ス

一 標品鑑査

標品鑑査ヲ望ムモノハ同一標品二枚以上ヲ作リ其一ニ一々標品ノ一隅ニ合番號ヲ付シ採集年月產地其他備考事項ヲ記シテ送ルコトヲ要ス、標品ハ番號ヲ以テ學名ヲ通知シ返附ノ手數ヲ省略スル様ニシタシ

昭和四年三月

岡村金太郎